

OPEN-TECH INNOVATION

～世界に、地域に、社会に開かれた工科大学構想～



京都工芸繊維大学



KYOTO
INSTITUTE OF
TECHNOLOGY

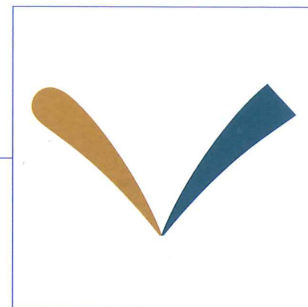
文部科学省
スーパーグローバル大学創成支援事業
タイプB採択



京都工芸繊維大学

KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒606-8585 京都府京都市左京区松ヶ崎橋上町 総務企画課 TEL. 075-724-7179
http://www.kit.ac.jp/



実学ベースの
実践的プログラムを徹底。
実力を確実に養成する。

3×3制を導入

カリキュラムを抜本的に改革
学部4年生を大学院0年生に

「確固とした技術力を持ち、語学力に支えられた国際性を備えている。海外の生産現場でリーダーシップを発揮し、ものづくりを強力に推進する。そんな人物がテックリーダーです」と川村匡SGU支援室長は、京都工芸繊維大学が今後、育成を目指す人物の具体像を説明する。

国内外を問わずリーダーとしてチームを引っ張るには、まず専門技術に関する秀でた力が必要となる。同学では今後、ほとんどの学部生が大学院に進む「3×3制」を導入して、6年間一貫で専門性を深掘りする教育に取り組む。

「この間、海外での企業インターンシップなどに参加します。10年後には留学生数年間400人が目標です」。入学後の3年間で基礎学力と英語力をがっちり固め、後半の3年間専門性を高め、海外で通用する実力を養うシステムである。

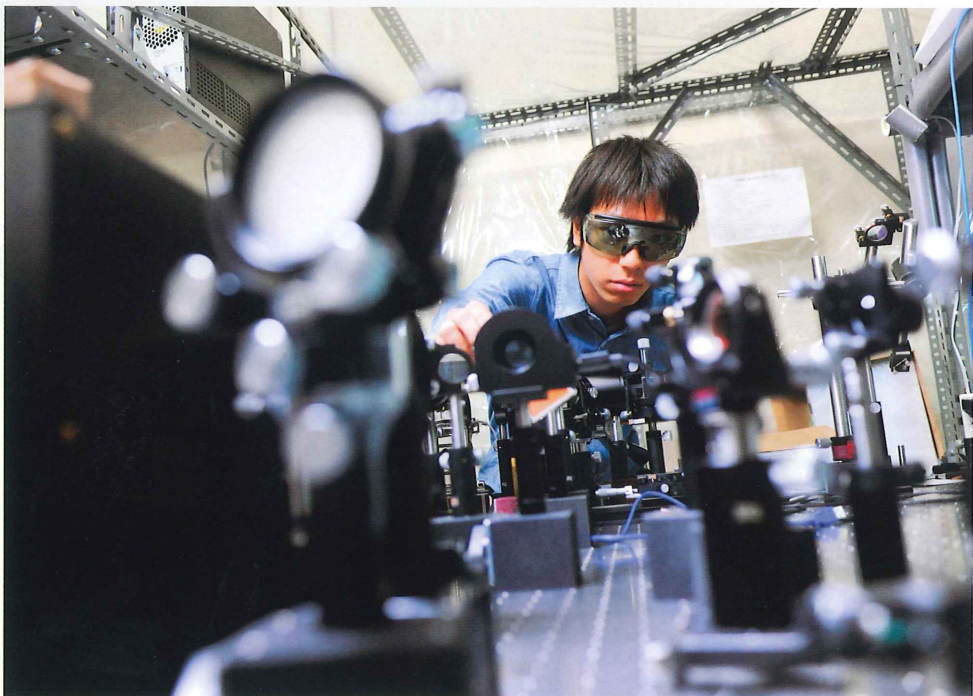
課題解決型のPBLを通じて
コミュニケーション力と
実践力を養う

拠点事業のひとつ、「COCC」に關しては、学生が府内各地域に向いて課題解決に積極的に取り組んでいる。

「府南部の和束町には、美しい茶畑があります。これを観光資源として売り出すため、学生がお茶のパッケージデザインを担当しています」

北部の与謝野町では、町村合併により生まれた、老朽化の進む余剰公共建築の再生計画に学生たちが取り組んでいる。建物の調査から始めて、町全体のあり方を考えた上で住民の合意形成を図り、最終的には自治体との調整までを行う。実践的プロジェクトを通じてコミュニケーション能力が鍛えられ、同時にリーダーシップも育まれる。

国内で下地を固め、海外でのインターンシップに取り組み、テックリーダーとして必要な能力を身につけるのだ。



機械・電子・情報・物質・化学・繊維・生物・バイオテクノロジー、デザイン・建築など工学系のあらゆる分野で先端的な教育研究を行っている。

NEW CHALLENGE

英語鍛え上げプログラムでは
TOEIC平均点が107点アップ

学部1年生から3年生を対象に、英語運用能力を向上させるためのプログラム「英語鍛え上げ」が導入される。今年度前期には30名の学部生を対象に、テスト運用が実施された。受講生に対しては教員がきめ細かくフォローすると共に、毎回大量の宿題が出され、夏休み期間中にも多くの課題が与えられた。プログラム終了後に参加学生がTOEICを受験したところ、参加者全員の平均点数が107点上がった。プログラムは今後さらにブラッシュアップされ、全学生を対象として実施される。



■大学DATA
【学部】
工芸科学部（生命物質科学域／設計工学域／造形科学域）
【大学院研究科】
工芸科学研究科
【学生数】
4,054人（2014年5月1日）



海外インターンシップはパリやベトナムなど世界各国でワークショップを実施。



京都の伝統的建築物や庭園に魅力を感じて留学してくる学生も多い。

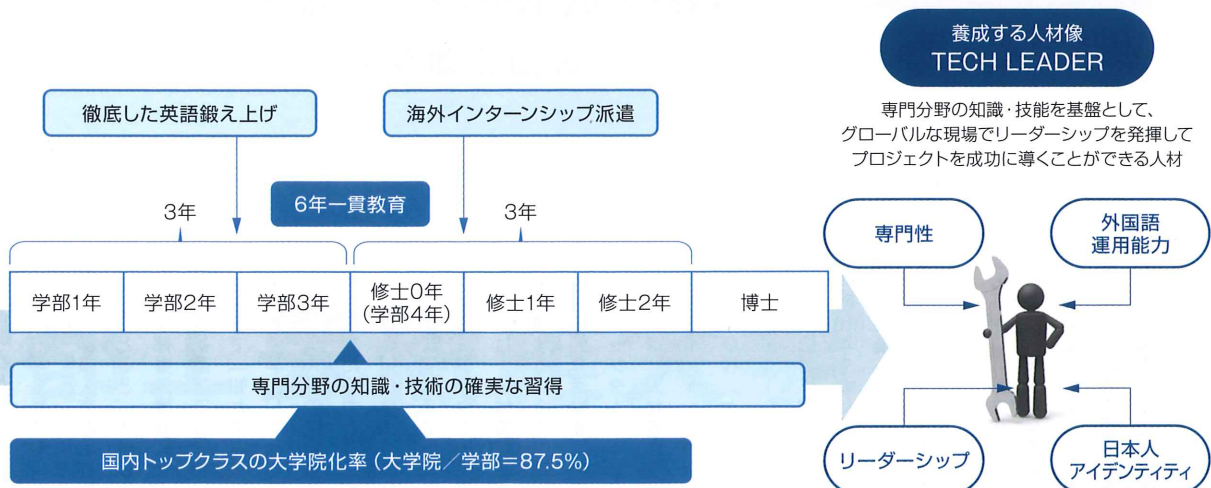
地の利を生かし
日本文化を学び人間力を育む

リーダーシップを発揮するには、人に尊敬されることが必要だ。日本文化への造詣を深め、教養を身につけたい。そこで同学は、留学生と共に伝統工芸の親方や茶道の宗家などを訪ねるプログラムを用意している。また、「イノベーション・バイ・デザイン」をキーワードに、デザイン主導型のイノベーションを引き起こす人材育成にも注力。日本を代表する自動車メーカーのデザイン部門では、同学のOBが要職を務めている。「国際化に際し、海外の優秀な研究者のユニット招致が実施済み。留学生の受入れによるキャンパス内のグローバル化も進んでおり、教職員の海外派遣も具体化しています」注目のビッグデータの活用にもい



ち早く取り組んでいる。学生のあらゆる情報を盛り込んだ総合型ポートフォリオを導入、解析結果を学生指導に活用する。データを元に進路に関するきめ細かなアドバイスも行う。「本学が最先端を行くデザイン・建築や繊維高分子の分野などでは、世界一線級の研究者との交流により、欧米や東南アジアでのプレゼンスが高まってきています。」あらゆる国の産業基盤を支えるテックリーダー育成機関として、同学に寄せられる期待は大きい。

京都工芸繊維大学 TECH LEADER養成プロセス



「知と美と技」を京都から。
日本の今後を支え、世界で活躍する
TECH LEADERを育てる。

DATA CHECK!

学べる理工系学部・研究科

【学部・課程】

工芸科学部

応用生物学課程／生体分子応用化学課程／高分子機能工学課程／物質工学課程／電子システム工学課程／情報工学課程／機械工学課程／デザイン経営工学課程／デザイン・建築学課程／先端科学技術課程

【大学院研究科】

工芸科学研究科

主な研究テーマ

- ◎昆虫ウイルスが作るタンパク質結晶による徐放剤
- ◎医薬・診断薬開発のための新規抗体ライブラリ基盤の開発
- ◎ナノ粒子複合系の高次構造制御と物性の研究
- ◎耐熱繊維複合材料の開発
- ◎高速度3次元動画画像システム開発
- ◎プラズマで拓く先端テクノロジー
- ◎適応する人工物のためのインタラクション・デザイン
- ◎機械要素の設計・製造・評価技術の革新
- ◎流体シミュレーションの利用
- ◎ブランド開発とプロダクトデザイン
- ◎NZEBを支える建築・設備基盤技術の創出



京都工芸繊維大学
KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

古山正雄学長

地域の拠点かつ
アジアのハブとなる

国立大学法人京都工芸繊維大学の歴史をたどると、1899年に開設された京都蚕業講習所と1902年開設の京都高等工芸学校に至る。今では京都で「知と美と技」を探求する工科大学として独自の道を歩んでいる。「大学の機能強化として拠点形成事業に注力しています。すなわちCOC、COI、COGの3つを総合的に進めることです」

COC（センター・オブ・コミュニティ）は、地域の拠点となり活性化に加速する動きで、既に京都府北部で積極的な活動を展開している。COI（センター・オブ・イノベーション）は、人材育成や共同研究に力を入れイノベーションの拠点を目指す。COG（センター・オブ・グローバルイノベーション）ではグローバル化を強気に推進する。

「今後10年をかけて、大学全体の国際化を推進します。世界に開かれた工科大学として、あらゆる国の産業基盤をけん引することができるテックリーダー、日本の今後を支える人材を育成します。卒業生には、内外の様々なプロジェクトを率いて、事業を成功に導く国際的技術者として活躍することを期待します」